

実用化 事例

ユニバーサルデザイン漆塗り箸 & 西ノ内和紙ケースの商品開発支援

【相手先企業】 奥久慈資源を活用した商品開発委員会

【開発の背景】

いばらき大使で、国内外においてユニバーサルデザインで活躍しているデザイナー中川聡氏（株式会社トライポッド・デザイン／東京）より、「デザイン」を活用した茨城のクラフト産業の振興に取り組みたい相談を受け、活動を開始しました。

委員会は、県産木材、奥久慈の漆、西ノ内和紙など、県北を中心とした素材と技術を活用した商品を、出口を見据えて開発することを目指しました。



写真1 開発打合せ風景

【開発の経緯・支援内容】

当センターでは、地場の産業資源や技術を活用した商品開発に意欲的に取り組んでいる地元企業グループを中川氏に紹介すると共に、双方の連携促進を支援し、商品開発に繋がりました。

また企業グループへは、(財)グリーンふるさと振興機構「平成21年度起業化支援事業」の補助事業の採択支援や商品開発の際に材料選定や加工技術の支援を行いました。

※ 奥久慈資源を活用した商品開発委員会メンバー
ウェアウッドワーク、紙のさと、YUS、安達建具店、
嶋野木工所、漆生産者、価値創造研究所

中川氏がアメリカでグッドデザインを受賞(2008年)したデザインをベースに、全て地元産の天然素材を活用したお箸とその和紙ケースを開発しました。



写真2 加工打合せ

【開発した製品の紹介】

- ・ 材質は、県産サクラ材としました。
- ・ 形状は、動きがスムーズになるよう手に持つ部分をシェイプさせました。
- ・ 全体の表面仕上げは木目を生かすため漆で拭き上げ、シェイプした部分へは磨耗性向上とワンポイントとして帯状に、黒、朱、銀色漆で加飾しました。
- ・ ケースはスムーズな表面を持つ和紙に、漆による草木染で2種類の媒染剤により染め上げました。



写真3 製品

※ 製作過程が大手販売会社ホームページで紹介されました。

※ 製品は大手販売会社へ納品されました。 価格:3,000円/膳(税別) 受注生産

基礎となった事業 技術相談・連携支援 テーマ名「奥久慈資源を活用したお箸商品の開発」

現在の担当部門 産業連携室 室長 大力 賢次 tel: 029-293-7212
主任研究員 寺門 秀人